

まちの財政は「健全」

財政健全化判断比率および資金不足比率が報告されました。健全化判断比率のうちのいずれかが早期健全化基準以上になった場合は、財政健全化計画を策定し、財政の健全化を図ることとなります。

まちの平成24年度決算においては、いずれの数値も早期健全化基準などを下回っています。

1 健全化判断比率

実質赤字比率	連結実質赤字比率	実質公債費比率	将来負担比率
— % (15.0)	— % (20.0)	9.0% (25.0) [8.9%]	18.4% (350.0) [25.1%]

備考 各比率の早期健全化基準は（ ）内に記載
実質赤字額がない場合「—」を記載 前年度は〔 〕に記載

2 資金不足比率

特別会計の名称	資金不足比率
水道事業会計	— %
公共下水道事業特別会計	— %
農業集落排水事業特別会計	— %

備考 資金不足がない場合「—」を記載

歳入決算額は、20億8477万円、前年度対比102・2%、4463万円の増額、歳出決算額は、20億3951万円、前年度対比102・1%、4276万円増額となりました。歳入歳出差引額4526万円が翌年度に繰り越されました。歳入においては、国民健康保険税が、前年度対比101・4%、801万円増額になりました。収納率は75・1%、収入未済額は1億9147万円となり、前年度対94・9%、1029万円の減額でした。

反対討論
小池春雄 議員
まちの国保税は、平成23年度は県下で一番高い。国保加入者が増えている中、値下げをして、県下一位の汚名を返上すべきではないでしょうか。以上の観点から反対です。

賛成討論

宇都宮敬三 議員

医療保険の負担は負担能力に応じて差別のない給付が原則である。まちでは、一般会計から法定内繰入をして被保険者の負担軽減に努めているので賛成です。
Ⅱ 賛成14・反対1で認定Ⅱ

国民健康保険事業特別会計

滞納は1029万円の減額



検診風景（保健センター）

保険料徴収率は99・5%

歳入決算額は、10億7559万円、保険料が2億4089万円、一般会計から1億4523万円が繰り入れられました。

歳出決算額は、10億6372万円、給付金が10億1112万円でした。

歳入歳出差引額1188万円が翌年度へ繰り越されました。年度末の第1号被保険者数は3882人、要介護認定者数は662人、保険料の徴収率は99・5%でした。

Ⅱ 賛成14・反対1で認定Ⅱ



敬老福祉大会にて

被保険者前年度より42人増

歳入決算額は1億4334万円、主な内訳は保険料1億245万円、一般会計からの繰入金は3601万円でした。

歳出決算額は1億3989万円で、主な内訳は広域連合納付金1億3571万円、総務管理費387万円でした。歳入歳出差引額345万円が翌年度に繰り越されました。

被保険者数は1883人で、医療費の総額は15億86万円、収入未済額は30万円、収納率は99・6%でした。

反対討論

小池春雄 議員

老人医療費無料化からスタートした高齢者の医療制度は、制度の改悪により、高齢者を子どもの扶養とは認めず、保険料を年金から直接徴収し、所得により負担割合が異なる差別的医療制度で容認できないので反対です。

賛成討論

宇都宮敬三 議員

後期高齢者医療制度は、戦後の経済成長を支えてきた方々の労苦に報いるための制度で、社会全体で高齢者を支え合うことを基本理念としています。まちと広域連合組織で適正に運営されているので賛成です。

Ⅱ 賛成14・反対1で認定Ⅱ